国語

試験日 二〇一九年二月四日(月曜日)

開始時刻 午後一時

終了時刻 午後二時

注意事項

- 一、この冊子は十九ページです。落丁、乱丁、印刷の不鮮明などがあつた場合には申し出て下さい。
- 二、解答はかならず解答用紙(マークシート)の指定されたところの番号をマークしてください。
- 三、解答用紙の受験番号欄には、かならず受験番号(七ケタ)を記入し、その番号をマークしてください。
- 四、解答用紙への記入は黒鉛筆を、解答を消す場合は、プラスチック消しゴムを使用してください。
- 五、解答用紙は試験が終了したら、かならず提出してください。
- 六、試験室内で配付された問題用紙は、持ち帰って結構です。

一 次の文章を読み、後の問に答えなさい。

現在のぼくは熱心な読書家であるという自信はありませんが、絵の制作の合間を時間つぶしの読書に当てています。年間平均すれば一日に一時間程度でしょうか。時間つぶしに読んだり、またインスピレーションを得るために画集を見ることが多く、こんな時の読書は、にわか勉強で一種の火事場泥棒的瞬間芸を発揮しているようなもので、それが終ればハイそれまでで読んだ本の内容は同時に忘れてしまいます。読書に見離されていたと同様、絵の勉強も全て独学なので未だに知らないことだらけです。読書などによる学習は確かに欠落していますが、逆に最初からアカデミズムから解放されているので色んな制約や規範からは常に自由な立場にいられるように思います。A 他人からすれば大胆な作法というか、先ず無作法を平気でやっているように映るようです。無知といえは無知ですが、逆に物を知らないことの強味というか自由さを意識することもないですね。それは美術に限らず人生に於いても同様で、読書で習得した知識に縛られるということがないだけに逆にいい加減なものです。このいい加減ということは制約や規範から自由という意味でのいい加減なのです。いい加減の中で自分を超える時間を一瞬持つということがよくには必要なのです。そしてそれが遊びであり自由であると思うのです。

だけれども読書で取得するような知識や教養は残念というか、当然ですが持ち合わせていません。B 肉体で習得した感性とアンファンテリズムはそれほど失うことが少なかったと思います。知性の欠落がかえって感性とアンファンテリズムを養ってくれました。ぼくが美術家である以上この二つは創造の核なので手放さないようにしなければなりません。そして知性に代るべき武器として与えられた装置に「記憶」があります。知識における記憶は暗記だと思っています。それに對してぼくの記憶は全て体験によって肉化したものです。ところが勉強のための記憶に関してはぼくはなほだしい健忘症です。この資質は子供の頃から、知識的な記憶は「a」です。何故瞬時に忘れるのかわかりません。きつと勉強のための読書ではなく、時間つぶしの読書だからでしょうか。いつだったか新聞で筒井康隆さんが、大江健三郎さんと丸谷才一さんとの「ア」談の中で、自分は勉強や教養のために本は読んだことはないとおっしゃっていました。だけれど筒井さんは記憶の天才です。そこがぼ

— 1 —

くとの大違いです。ぼくの場合勉強のためにいくら本を読んでも何の役にも立ってないように思うのです。C 読書は時間つぶしのための暇(ひま)みたいなものです。読書時に没入するだけで忘我の時間が終われば再び日常の雑念世界に戻ります。どうせ読み終ると同時に記憶から消えるのです。潜在意識が記憶していて読書は必要な時に記憶が芽を出すための肥料になるなんて言う人がいますが、そんなユングの説みたいなものに頼っているわけにはいきません。無意識や直観や内きや「I」の知らせや神のお告げなどを期待しては何もできません。D このような妄念から解放されている方がいいように思います。というのはすでに体験によって肉体の中には時と場合に応じて必要なものがスタンバイされていると感ずるからです。勿論読書から得た知識も少しは内蔵されているかも知れませんが、それ以上に肉体が感得した経験と魂の記憶が肉体の声に変換される時、創造の手が動くのです。

勉強のための読書はぼくにとつては、時間的に非常にロスで勿体無いものです。なぜならぼくの場合、それは肉体を素通りした単なる知識だからです。その点無駄な時間つぶしのための読書は贅沢な戯れであると同時に忘我のための事業です。E 時間つぶしが勿体無いと言われるのなら一体いつ自分を超える時間を持つのでしょうか。ぼくにとつての時間つぶしは自分自身を超えるための試金石なのです。ところで自分を超えるとはどういうことでしょうか。「超える」という言葉をはくは感覚的にとらえているのです。自分を超えて超人を目指そうということではないのです。三島由紀夫みたいにボディビルで肉体を改造したり、音速を超える自衛隊機「F104」に「ウ」乗して、肉体が精神を凌駕する瞬間のエクスタシーに陶酔するようなエロティックな挑戦ではなく、自分を包んでいるこのどうにも重たい肉体をアフォルメするのはなく、透明人間のように誰からも見えないような存在になれると実に愉快だなぁと夢想するそんな自分からの離脱です。つまり物質的な存在としては全く役に立たない存在と言えはいいのでしょうか。

(横尾忠則「言葉を離れる」より)

(注) アンファンテリズム —— 子供っぽい言動
* 設問の関係上、本文にふりがなを付したところがあります。

問一 傍線部①「時間つぶしの読書」とあるが、これはどのような読書か。その説明として最適なものを選び、その番号をマークしなさい。解答欄は 1。

- ① さまざまな制約に縛りつけられないために、読んだものをできるだけ忘れてしまおうとする読書
- ② あくまでも自分のやりたいことは絵の制作なので、本当はやりたくはないが仕方なく行う読書
- ③ 自分から離れて無になるために行うもので、特に何かを学ぼうと思つて行うものではない読書
- ④ 記憶しているものを思い出すきっかけになり、さまざま閃きや発想を得ることができる読書
- ⑤ 感性を大切にして絵の制作を行ってきたが、知性をも自分の制作に取り込もうと行う読書

問二 空欄A、Eに次の①～⑤の語をすべて一度だけ用いて補つたとき、空欄B、Dに入る最適な語を選び、その番号をマークしなさい。解答欄はBが 2、Dが 3。

- ① もし
- ② だから
- ③ むしろ
- ④ しかし
- ⑤ その代り

— 3 —

— 2 —

問三 傍線部②「自分を超える時間」とあるが、これはどのような時間か。その説明として最適なものを選び、その番号をマークしなさい。解答欄は 4。

- ① 自分のなかにどっぶりつかり、自分におぼれている時間
- ② 自分を突き詰めて、自分の本質と向き合っている時間
- ③ 自分を理想化することによって、自分に陶醉している時間
- ④ 自分へのこだわりを捨てて、自分を客観視している時間
- ⑤ 自分ではあるが、感覚的には自分ではなくなっている時間

問四 傍線部③「記憶」とあるが、筆者にとつての「記憶」の説明として最適なものを選び、その番号をマークしなさい。解答欄は 5。

- ① 勉強のために行った読書ではなく、自分の関心の赴くままに読書しているうちに蓄えられた記憶
- ② 絵の制作のモチーフを考える際に、より広い見地から物事を捉えるために蓄えられた記憶
- ③ 頭のなかで観念的に物事を捉えるのではなく、実際に体験を積み重ねるなかで蓄えられた記憶
- ④ 自分では意識していなくても、読書をする中で無意識の層に知らないうちに蓄えられた記憶
- ⑤ 誰からも、また何の制約も存在しないので、何の責任を感じることもなく適度に蓄えられた記憶

問五 空欄 a に当てはまる最適なものを選び、その番号をマークしなさい。解答欄は 6。

- ① 空気の抜けた風船を大空に飛ばすようなもの
- ② 針のない時計で正確な時間を確認するようなもの
- ③ 字のない書物から教訓を得ようとするようなもの
- ④ 底の抜けた壺の中に水を入れるようなもの
- ⑤ 蓋のない箱に宝石を隠しておくようなもの

問六 空欄ア、イ、ウに入る漢字の最適な組み合わせを選び、その番号をマークしなさい。解答欄は 7。

①	ア	鼎	イ	腹	ウ	登
②	ア	対	イ	虫	ウ	踏
③	ア	会	イ	虫	ウ	登
④	ア	鼎	イ	虫	ウ	踏
⑤	ア	対	イ	腹	ウ	搭

問七 傍線部④「勉強のためにいくら本を読んでも何の役にも立っていない」とあるが、それはなぜか。その説明として最適なものを選び、その番号をマークしなさい。解答欄は 8。

- ① いい加減な本の読みかたをしているだけであるため、絵の制作に反映できないから
- ② 肉体を媒介していないために、知識として記憶に残らないから
- ③ 記憶しようと躍起になっているが、それを上手く利用することができないから
- ④ 記憶力が劣っており、読んだことを覚えた途端に忘れてしまっているから
- ⑤ 本を読んでいるうちに雑念が取り扱われるが、創造の糧にはできていないから

問八 傍線部⑤「肉体が精神を凌駕する瞬間のエクスタシー」とあるが、これはどのような状態か。その説明として最適なものを選び、その番号をマークしなさい。解答欄は 9。

- ① 肉体が精神を追いやり、確固たる実体として存在している状態
- ② 肉体が精神を包み込んだ自分の姿に見惚れて、我を忘れている状態
- ③ 肉体が精神をしのいで、うっとり快感にひたり恍惚としている状態
- ④ 肉体が精神とあいまって、通常の自分以上の自分になっている状態
- ⑤ 肉体が精神を蔑ろにし、肉体を誇示して傲慢になっている状態

二 次の文章を読み、後の問に答えなさい。

「日々「進化」を遂げる機能についていくことのできない所有者を、¹⁾「ケータイ難民」とか「スマホ難民」とかと呼ぶらしいが、だとすると、深刻な難民問題も、ケータイにかかるとずいぶん軽く見られたものだ。使いこなせないことを承知のうえで、新たな機種が次々と開発される。それもこれも金儲けのためである。それはどこか、現代の政治におけるリスクとセキユリティとの関係にも似ているように、わたしには思われる。リスクがセキユリティを要請しているというよりも、セキユリティの名目でさまざまな弾圧や介入を奨励することの方が、むしろリスクを招いているのだ。ケータイを悪用した新種の詐欺や犯罪が、防止策や法規制と A というのも、また、現代の悲喜劇として未来に語り継がれることになるのかもしれない。

もはや太古の化石のような話かもしれないが、固定電話では、誰が受話器を取るのか、おおよそ予想がつかない。お願いだからお目当ての人が出てくれ、間違っても父親や母親ではなくて……、という切実な思いで恐る恐るダイヤルを回したという経歴のある熟年層は少なくないはずだ。これもまた、いまの学生諸君には理解しがたいことなのかもしれない。だが、期待外れや不確定なことは日常茶飯に起こりうるということこそ、些細だが苦くもあるその経験は教えてくれた。ケータイでは、ほほいとも想定内の人が自分に応えてくれるから、コミュニケーションとはそういうものなのだ。勝手に思い込んでしまう。要するに、この小さくて薄い箱は、現代人の生活様式や行動パターンどころか、思考形態や感受性までも変えつつあるのだ。ミクロコスモス（小宇宙）人間」とマクロコスモス（大宇宙）宇宙」とがおたがいに響きあっているという考え方は、西洋では、古代以来の占星術やルネサンスの新プラトン主義、さらには近代でもポンドレルの「万物シノウオウ」などへと綿々と受け継がれてきたものだが、今日、ミクロコスモスはケータイに、マクロコスモスは膨大な情報の流れへと変容し、わたしたちはそれらのあいだで翻弄されるか、それとも、そこから疎外されているように思われる。何より危惧されるのは、ケータイが現代人の関心を、もっぱら「現在」に、「この瞬間」に向けさせていることである。こ

うして、記憶や想像力、沈黙や反省の役割はおのずと小さくなっていく。しかも、通話記録等は残され把握されているから、結果的に利用者は、目に見えない大きな存在に監視され管理されていることになる。^{注2} ジル・ドゥルーズの予告した「管理社会」の究極のカタチがここにある。

そして、何よりも困るのは、それを紛失したときである。古参の固定電話か、家族や友人のケータイを借りて、各種カード会社に急いで連絡しなければならないのは仕方ないとして、まるで自分のいちばん大切な部分を失ってしまったかのようにすら感じられる。ほんの小さな取るに足らない箱であるにもかかわらず……。実際のなことはわかりか、人格の大部分をも、その小さな魔法の機械に委ねているからである。

ところで、皆さんもよくご存じのように、グローバルな情報化の時代に熾然と輝くアップル社のロゴ、一口だけかじった跡のあるリンゴは、最初の人類アダムとイヴが、神の忠告を破って口にしてしまった楽園のキンダンの木の実がモデルになっている、という説もある。だとすると、現代の大量消費社会の権化でもあるこの企業は、みずからの「原罪」に自覚的であるというところだろうか。あるいは、その創業者たちは、自己アイロニーの機知に長けていたのだろうか。いずれにしても、テクノロジーの進歩のもたらす功罪は、否定すべくもない。

この国は遺憾なことにも「難民」にこのほか厳しいようだから（現政権のもと、その政策はますます頑なになっているようだ）、スマホになじめないばかりか、ケータイ以来いまだにそれを手にすることすらできないわたしも早晩、「難民」として「排除」されることになるかもしれない。が、それもこれも **B** なのだろう。これは「リテラシー」以前の感性の問題なのかもしれない（おそらくそうだ）。とはいえ、メディア・リテラシーの根本にあるのは、何よりもメディアや情報に溺れないこと、踊らされないことではないだろうか。

（注1）ボードレール —— フランスの詩人（1821年～1867年）
（注2）ジル・ドゥルーズ —— フランスの哲学者（1925年～1995年）

* 設問の関係上、本文にふりがなを付したところがあります。

（岡田温司「スマホと「管理社会」」より）

問一 傍線部①「**ケータイ難民**」とか「**スマホ難民**」とかと呼ぶらしい」とあるが、なぜそれらの「難民」は生まれるのか。その説明として最適なものを選び、その番号をマークしなさい。解答欄は **10**。

- ① 年齢を重ねた人は頭が固く、新しい機能を使いこなすことができないから
- ② 新しい機種を購入してもらおうと、次々と新しい機能を開発していくから
- ③ 新しい機種が発売されても、直ちに誰もが買い替えることができないから
- ④ マニュアルがわかりにくく、新しい機能を使いこなすことができないから
- ⑤ 使い慣れた機種から新しい機種へと変更しようと思う人ばかりではないから

問二 傍線部②「リスクとセキュリティとの関係」とあるが、これはどのような関係か。その説明として最適なものを選び、その番号をマークしなさい。解答欄は **11**。

- ① セキュリティが完全ではないために、リスクを排除できず安全を保障することができないという関係
- ② いままでになくリスクが大きくなっているために、セキュリティを完全にする必要があるという関係
- ③ セキュリティが自らの機能を強化することで、リスクをいっそう高めることになっているという関係
- ④ リスクを正確に分析することができず、セキュリティを完璧にすることが不可能であるという関係
- ⑤ セキュリティとリスクは相関的であるため、それぞれを個別に捉えることができないという関係

問三 空欄 **A** に入る最適な語句を選び、その番号をマークしなさい。解答欄は **12**。

- ① 同じ穴の貉（くさね）である
- ② 狐と狸の化かし合いを演じている
- ③ 割れ鍋に綴じ蓋
- ④ いたちごっこを繰り返している
- ⑤ 犬猿の仲

問四 傍線部③「**そういうもの**」が指しているものとして最適なものを選び、その番号をマークしなさい。解答欄は **13**。

- ① 自分が連絡しようと思うと、相手から連絡があり、自然と話をすることができるといふもの
- ② 自分が話をしたいと意図している相手と、何の問題もなく話をすることができるといふもの
- ③ 自分と相手の考えていることが一致しており、不安を感じることなく話ができるというもの
- ④ 自分の感性に合わない人を避け、感性の合う人とだけ意思疎通を図ることができるというもの
- ⑤ 自分の伝えたい思いをたとえ言葉にななくても、相手は正しく理解することができるというもの

問五 傍線部④「**管理社会**」の究極のカタチ」とあるが、これはどのようなカタチなのか。その説明として最適なものを選び、その番号をマークしなさい。解答欄は **14**。

- ① 過去の経緯とは関係なく現在の状態だけですべての価値が決定されているというカタチ
- ② 直接的に誰かに見張られているわけではないが、すべてが見られているというカタチ
- ③ 大きな権力が働くことで、すべての個人の情報が二元的に統御されているというカタチ
- ④ 外部から力が及ぶことにより、個人が自由に行動することができなくなっているというカタチ
- ⑤ 人間の頭脳のみが制御が及び、人間を思うがまま動かすことができるというカタチ

問六 空欄 **B** に入る最適な語句を選び、その番号をマークしなさい。解答欄は **15**。

- ① 大きなお世話
- ② 言わぬが花
- ③ 泣きっ面に蜂
- ④ 五十歩百歩
- ⑤ 身から出た錆

問七 傍線部⑤「メディア・リテラシーの根本」とあるが、これはどのようなことか。その説明として最適なものを選び、その番号をマークしなさい。解答欄は 16。

- ① すべての人間の間には社会的格差が生じないよう、メディアや情報を遍在させるといこと
- ② 人間がメディアや情報を使いこなすことによって、感性が豊かな社会を構築していくこと
- ③ テクノロジーを進歩させ、人間がメディアや情報を効率よく使いこなせるようにすること
- ④ 人間がメディアや情報に振り回されることなく、人間主導でそれらとの関係を形成していくこと
- ⑤ メディアや情報に頼りすぎずに適度に利用することで、効率的な生活を営むようにすること

問八 本文の内容に合致するものとして最適なものを選び、その番号をマークしなさい。解答欄は 17。

- ① スマホやケータイにより個人が情報を発信することが可能になり、管理社会は崩れ始めている
- ② スマホやケータイは一日一日進歩しており、それに伴って使用者である人間も進化している
- ③ スマホやケータイは、単に通信媒体の進歩に終わることなく、われわれの内面までも変容させつつある
- ④ スマホやケータイを使いこなすことができない者を、日本の社会は淘汰しようとしている
- ⑤ スマホやケータイには大量の情報が蓄積でき、いままですら以上に過去とのつながりが強くなっている

問九 a「ショウオウ」、c「キンダン」の波線部と同じ漢字を含むものをそれぞれ一つ選び、その番号をマークしなさい。解答欄はaが 18、cが 19。

- a
 - ① オリンピックをショウウチする
 - ② 係長にショウウシンする
 - ③ 無罪をリッショウウする
 - ④ 空にはまだザンショウウがある
 - ⑤ 国歌をセイショウウする
- c
 - ① ジダングダを踏む
 - ② ダンゴウの疑い
 - ③ 社会からシダングンされる
 - ④ やりくりサンダング
 - ⑤ ダンマツマの苦しみ

問十 波線部①「翻弄」の意味の説明として最適なものを選び、その番号をマークしなさい。解答欄は 20。

- ① 本来の自分の姿を見失う
- ② 思うがままであそぶ
- ③ 自分を制御できなくなる
- ④ 決定できなまま時が流れる
- ⑤ 社会から排除される

三 次の各問に答えなさい。

問一 誤字を含むものを一つ選び、その番号をマークしなさい。解答欄は 21。

- ① 市場が寡占状態になっている
- ② 彼の言動にとても心象を害した
- ③ この件で道義的責任を感じた
- ④ 正社員として処遇してもらおう
- ⑤ 上司の小言に食傷する

問二 誤った読み方のものを一つ選び、その番号をマークしなさい。解答欄は(1)が 22、(2)が 23。

(1) ① 悔悟(かいご)	② 審美(しんび)	③ 疾駆(そくく)
④ 造詣(ぞうけい)	⑤ 薰陶(くんとう)	
(2) ① 遡る(さかのぼる)	② 連やか(すみやか)	③ 更ける(ふける)
④ 賜る(たまわる)	⑤ 妬む(うらやむ)	

問三 慣用句として () に入る言葉が「 」にないものをつ選び、その番号をマークしなさい。解答欄は 24。

【いつする・とる・なめる・かんじる・ふる】

- ① 機嫌を ()
- ② 辛酸を ()
- ③ 常軌を ()
- ④ 牙先を ()
- ⑤ 采配を ()

問四 傍線部の言葉の使い方が適切でない文を一つ選び、その番号をマークしなさい。解答欄は 25。

- ① みんなの前で俺に任せろと大見得を切った
- ② 手をこまねいている友達とともに戦った
- ③ 裁判官は、弁護団の主張を「顧だにせず判決を下した
- ④ 機転が利く人物が出世していくのは当然だ
- ⑤ いい加減なことを言ってお茶を濁しただけであった

— 16 —

問七 同義語の関係になっていないものをつ選び、その番号をマークしなさい。解答欄は 28。

- ① 五角—伯仲
- ② 功名—殊勲
- ③ 召還—返済
- ④ 抄録—抜粋
- ⑤ 平穩—安寧

— 18 —

問五 傍線部の言葉の使い方が適切でない文を一つ選び、その番号をマークしなさい。解答欄は 26。

- ① うるさくて夜もおちおちと眠ることができない
- ② 返答に困ってしまい、もごもごと口ごもる
- ③ 宿題を忘れたので、いそいそと家に取りに帰った
- ④ 早く工事をしてほしいと、やいのやいのと催促する
- ⑤ 脇目も振らず、すたすたと通り過ぎた

問六 対義語の関係になっていないものをつ選び、その番号をマークしなさい。解答欄は 27。

- ① 発奮—落胆
- ② 威圧—懐柔
- ③ 臭気—芳香
- ④ 横柄—謙虚
- ⑤ 非凡—逸材

— 17 —

問八 ①、②のカタカナの部分と同じ漢字を使うものを、それぞれ一つ選び、その番号をマークしなさい。解答欄は①が 29、②が 30。

- ① 温コウな人柄
 - ② コウ潮した頬
 - ③ 抹コウ臭い
 - ④ コウ頭試問
 - ⑤ コウ学の指導
- ② 暖衣ホウ食
- ① ホウ漫な経営
 - ② ホウ和溶液
 - ③ ホウ美をもらう
 - ④ 水ホウに帰す
 - ⑤ ホウ負を語る

— 19 —